

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100343		
法人名	医療法人 寿人会		
事業所名	グループホーム ファミージュ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮2-1-18 ユートピア沖縄4階		
自己評価作成日	平成 27年 1月23日	評価結果市町村受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100343-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームファミーユは、同じ建物内に法人のクリニックがあり、入居者の定期受診や病状の変化など、医師・看護師に報告し協力体制にあります。又、近くに法人の病院もあり、緊急時は連携し対応しています。ディサービス、保育園も併設しており、夏祭り・敬老会・ミニ運動会等の行事を合同で行っています。天気の良い日は近くの公園や図書館に入居者と一緒に出かけます。家族の面会も多く、家庭的な雰囲気の中で入居者が生活できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人複合施設4階の、サービス付き高齢者住宅の一角に2011年に開設している。事業所の「理念」や「運営推進会議」の開催等は、開設後の管理者や職員の取組により構築されている。特に、地域との関わりは事業所の立地条件から厳しい環境ではあるが、管理者は地域の関係者等へ運営推進会議委員を打診することで事業所への理解を求め、毎週地域のフレデイに出向き住民への行事等案内や広報にも努めている。現在は、地域の保育園児との交流や住民の行事(余興)への参加に繋げている。また、入居者毎に生活の質の支援を計画に位置付けて、入居者の趣味や残存機能を活かす活動等を企画し支援している。家族の面会が多く、入居者と家族が寛げるよう、居室環境は個々に任せている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 27年 4月 3日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ステーション前の壁に理念を掲示し、朝の申し送り後に全職員で唱和している。職員は常に心を柔軟にして、利用者が気軽に相談できるように努めています。	理念は事業所開設後に職員から「理念の必要性」の提案を受け、職員間で作成に取組み3項目にまとめ掲げている。「地域家族のあり方」、「入居者と職員双方の関係性」、「介護にマニュアルはない」等職員の姿勢等を謳い、申し送り等で唱和し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流はできていない。法人全体の行事があるときは、地域公民館に出向き、パンフレットをお渡しして参加をお願いしている。9月には法人の祭りの余興に地域住民の方に多数参加頂きました。	管理者は地域自治会長や民生委員等に運営推進会議委員を打診して協力関係を築き、毎週公民間で開催される地域フレディにパンフレットを配布して交流に結び付けている。例えば、事業所行事へ参加呼びかけし、地域住民が余興に参加したり、入居者が散歩の途中にフレディに立寄る等で交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方に向けての取り組みは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、行政、家族参加のもと、ホームの利用状況、活動報告、事故報告を行い、助言・要望を頂き、サービス向上に繋げている。利用者も参加され、ホームでの生活ぶりを聞きとり、委員の方との交流を図っている。	運営推進会議は奇数月で年6回開催し、複数の入居者や家族、地域や行政が参加している。会議では災害対策の取組や事故、ヒヤリハットの報告、外部評価結果についても意見交換している。1週間前に会議開催を連絡し、議事録や外部評価結果は閲覧できるようファイルにして入口に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、家族等の要望等について、意見交換やアドバイスを頂き、サービスに繋げている。	行政とは運営推進会議や窓口訪問(個人の申請時、書類提出時等)で課題についての指摘や意見交換、情報提供をしている。研修案内や利用状況等はメール送信を活用している。那覇市グループホーム連絡会にはできる限り参加して制度等についての情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを全職員が理解し、緊急時やむを得ない身体拘束を行う場合は、家族に説明し承諾を得てから行い、又経過については、細かく記録を残すようにする。	身体拘束についての方針は運営規定や利用契約書に明示し、身体拘束抑制や虐待防止等のマニュアルも整備している。昨年課題とした「入ロドアの暗証番号化」について運営推進会議の議事録から、「暗証番号を知っているのが自由に出入りできるので拘束とは考えていない」との家族意見を確認している。事業所としては同階内での感染症防止等も考慮した取組でもあり、今後さらに検討したいとしている。	

沖縄県(グループホームファミリー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体面ではなく、毎日の利用者との関わりの中で、言葉遣いやケアの対応について注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフルームに参考資料を備え付け、職員は自己勉強を行っている。成年後見制度が必要と思われる利用者家族にはパンフレット等で説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時にわかりやすく説明している。説明に対し質問がないか確認した上で、同意を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に意見箱を設置し、家族や面会者からの意見や要望等を聞けるようにしているが、開所から投稿の実績はない。又、利用者や面会時に家族に話しかけ、なんでも相談しやすい雰囲気作りをしている。出てきた意見、要望は直ぐに職員間で話し合い解決している。	入居者の「洗濯干しがほしい、外へ出かけたい」等の直の訴えの声に職員は応えている。表出が困難な入居者は、声かけの際の反応や表情等を参考にしている。家族からは面会時や運営推進会議で意見があり、「何かがあつてから頼むのではなく、日頃から地域との交流を行い、協力が得られるよう関係作りが必要ではないか」等があり職員も努めたいと回答している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティングで、職員の意見、要望を聞き、検討して反映させている。	職員は日々のケアについて申送りを朝、昼、夕で持ち情報を共有している。申し送りノートはあるが、管理者が入居者の受診時の結果や状態、ケア方法等を記載し、職員は情報を共有するために確認するだけで、職員間の意見や提案等は記録化されず、全員で意見交換する機会も少ない。	毎月定期的に職員間で意見交換できる機会を確保し、利用者のカンファレンスや業務への意見等の把握に努めてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課では、職員一人ひとりの勤務状況を把握し、職員が向上心を持ち就業できるよう職場環境・条件の整備に努めている。年2回の健康診断やインフルエンザ予防接種の実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や認知症介護実践研修への参加の機会を設けてくれている。		

沖縄県(グループホームファミリー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月1回の那覇市グループホーム連絡会に参加し、情報交換してサービスの質の向上に繋げている。他事業所との相互訪問等を通して交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査を行なった上で、本人や家族より要望や困っていること、不安なことを聞き取り、安心して生活できるようにサービス導入前に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より要望や困っていること、不安なことを聞き取り、職員間で取り組めることを話し合いながら、家族との信頼関係作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の利用者・家族がホーム見学の際に面談を行い、本人のニーズに合ったサービスが受けられるように他の施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした時間の中で、入居者によりそい、さりげない声かけをしながら、心理的な負担がかからない日常生活が過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の日々の生活で、喜んだ出来事、不安に思っている状況等も伝えるようにしている。時には日々の様子を電話で伝えたり、活動写真をお渡しできるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活してきた自宅周辺へ出かけたり知人・友人などの訪問があるときは、気兼ねなく会話ができるように対応している。なるべく家族に多く面会に来てもらえるように努めている。	入居者の職歴に関わる知人や友人の訪問がある場合は、居室内でゆっくり過ごせるよう配慮している。以前の職場で開催される恒例行事にも毎年参加できるように家族と協力し、健康面等を管理している。入居者の職歴を活かした活動プログラムの企画や、馴染みの美容室利用の継続等、職員も支援に取り組んでいる。	

沖縄県(グループホームファミリー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、お互いに気遣い支え合う良い環境が出来ています。状況により職員が間にはいり、穏やかに過ごせる環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、本人・家族との関係を継続しながら他事業所や専門職と連携をとりながら支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話から本人の生活歴や本人のやりたいことなどを聞き出し、家族の面会時に情報をとり、申し送り時に話し合い、支援に繋げている。	入居者の思いは個別計画書に位置付け、支援体制を整え対応している。例えば、「楽しく生活したい」利用者は趣味のレク参加(集団ゲーム、三味線と踊り等)や、調理に関連する作業を盛り込み、食器洗いやおやつ作り等の場を提供している。また、夜間トイレの電気はつけたままにしたいとの声にも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に家族に情報を得ながら、又本人との会話の中から、生活歴や生活習慣等を把握し、サービス利用に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の生活のリズムを把握し、心身の状態に気を付けながら、日々の申し送りや個別記録で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望や困っていることを聞き、居室担当者を主に職員間で話し合い、介護計画に反映している。	入居者毎に担当職員を配置し、個別計画書はサービス担当者会議への利用者や家族の参加、3か月毎のモニタリングの実施等を基に作成している。計画に沿ったサービス実施状況の記録や、全体のカンファレンスは確認できない。また、1年毎の定期見直しはあるが調査期間内での随時見直しに該当する事例はない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録のあり方や、職員間のケアの情報を共有しながら、介護計画の見直しが円滑に行えるように努めている。		

沖縄県(グループホームファミリー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズや家族の要望に応じて、他のサービスも受けられるように取り組んでいる。家族の要望で訪問マッサージ施術を受けられている利用者がいる。基本的には病院受診は家族が同行するが、状況に応じて家族と相談し、職員で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所の保育園との交流や、近くの図書館利用や公園散歩、スーパーの地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は希望するかかりつけ医を受診している。家族が対応するときは、日々の健康チェックの内容と病状を報告し、受診できるようにしている。必要ときは管理者が付き添い、主治医に報告している。	入居者、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は家族対応だが困難時には管理者が対応している。受診時には医療機関に情報提供を行い結果は家族から口頭で受けている。薬の変更等は申し送りノートに記載して職員は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同建物内のクリニックの看護師に報告・相談し、受診できるように支援している。休診日や夜間は併設事業所の看護師に相談し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会を多くし、本人の病状の把握に努め、病院側と連携を取り、早期退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、入居者や家族へ「医療行為を要する場合は対応できない」ことを説明している。	事業所の方針は利用契約書17条3項で謳い、入居者や家族には医療行為を要する場合は対応出来ない事を契約時に説明している。病状の悪化に伴う状態の変化等については、かかりつけ医や担当医に重度化や終末期のあり方についての説明を任せている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しスタッフルームに張り出し周知徹底を図っています。緊急時には併設事業所の看護師に連絡し、応援体制にあります。		

沖縄県(グループホームファミリー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月に消防署職員参加のもと、併設事業所と合同で消防訓練を行いました。地域住民の参加には至っていない。今年3月に2回目の合同訓練を夜間想定で実施予定している。	訓練は自主訓練(基本訓練)と、消防署指導の下で併設事業所と合同の避難訓練を昼間想定で実施している。自主訓練(基本訓練)は消火器や消火栓等の防災機器等の扱い方等としているが、実施計画等の書類等は確認ができず、マニュアルも一部のみとなっている。備蓄は準備している。	省令による昼、夜想定の方2回以上の避難訓練の実施と、入居者や職員が安全に避難できるよう併設施設と合同で取組み、あらゆる災害への対応マニュアルの整備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシー確保を常に基本とし寄り添うケアを目指している。適さない対応があった際は職員間で話しあい、改善するように心がけている。	人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの個性を大切にしている。その人らしい姿を引き出し、生活の質の支援に心がけている。本人のペースにあわせた対応や日々の声かけに配慮している。職員は認知症実践者研修に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の衣類を本人と一緒に選んだり、本人の好む趣味や特技が行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を確認しながら、本人と相談しながら、寄り添うケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・入浴後、日頃よりお化粧を楽しんでいて、着替えは本人の希望する衣類を選んでもらっている。いきつけの美容室に行かれる方、訪問美容サービスを利用している方、本人や家族の希望に沿って支援している。月に数回、美容の時間を作り、ネイルを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	建物内の委託業者に食事は3食準備して頂き、下膳片づけは、入居者の力量に合わせて行なっている。月に数回のクッキングは利用者と職員が一緒に準備、片付けを行っている。	食事は3食とも配食を利用し、朝食はパンかご飯が選べる。夜勤職員が毎朝朝食を入居者と一緒に摂っている。入居者は下膳や片づけ、おやつ作りに参加している。また、月1回のクッキング、夕食作りには入居者も食事に関する一連の作業を行い、夕食は職員も一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後、チェック表に記録し、水分補給は、朝の体操後、おやつ時にお茶の時間を設けて飲水を促している。食事量の少ない方には、家族と相談し食事形態を変更したり、補助食品を提供して栄養が確保できるように支援している。		

沖縄県(グループホームファミリー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の習慣として利用者全員が行なっている。毎食後に自室の洗面台にて声かけや見守りを行い、できない方は介助にて磨き残しがないように気をつけている。口腔内や入れ歯の状態を把握し、歯科受診が必要な時は家族に報告し受診できるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるように、一人ひとりの排泄パターンを把握できるように排泄チェック表を活用し支援している。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、声かけや時間で誘導してトイレで排泄できるように支援している。「安心してトイレで用を足したい」等の思いには日々の立ち上がり運動を行い、トイレ内での動作も自立に繋げるよう行っている。居室にもトイレが設置され、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握して、毎朝のラジオ体操、リハビリ体操を行い、便秘予防に努めている。便秘症の方には十分な水分補給を促している。必要に応じて、腹部マッサージを行っている。改善しない場合は主治医に報告し、下剤の調整をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者や家族の希望に応じて入浴の回数をきめ、入浴を行っている。その都度調整を行っている。入浴拒否の場合は無理強いせずに時間や曜日を替えて柔軟に対応している。異性入浴の入浴介助は本人、家族の同意を得て支援している。ゆっくり入浴したい利用者には、希望の時間帯を聞き支援している。	入浴はシャワー浴で週2、3回を基本とし、曜日や時間等も希望を聞いて柔軟に対応している。入浴時、好みの石鹸を使う入居者、仲の良い方と一緒に入る方もいる。入居者の意向に沿い、同性での対応にも取り組んでいる。脱衣室の温度調節は冬場はヒーターで行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調確認を行い、状況や希望により休んで頂き、午睡の時間も設けている。夜間帯寝付けない利用者には、会話し不安を取り除けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に薬の説明書を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更があった時は、申し送りノートに記入している。症状の変化等は生活記録に記入し、家族や主治医に情報を提供できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの1日の生活のリズムを把握し、心身の状態に気を付けながら、食事の片づけ、自室掃除等できる事は支援している。おしぼりたたみや新聞折りは利用者の方が協力して行っている。		

沖縄県(グループホームファミリーユ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	建物周辺や天気の良い日は近くの公園に散歩に出かけている。利用者に出かけたい場所や希望を聞き、ドライブや買い物に出かけている。	入居者の希望を聞いたり、新聞等で情報を得て戸外に出かけられるよう努めている。事業所近くの公園には散歩や花見で徒歩(車イス)で出かけている。ドライブでも城跡見学や波の上公園、鯉のぼり見学等に出かけている。図書館に本を借りる目的の外出や肌着等の個別の買い物支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族にお財布とノートを準備して頂き、外出先での買い物のお金を事前にお預かりし、管理している。外出時にお財布の中から買い物ができるように支援しています。家族面会時に終始確認後サインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族に電話をかけて、会話して安心して頂いている。手作りの暑中見舞いはがきを作成し家族に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはソファを置き、テレビを観ながら、ゆったり寛げる空間である。食事の時間は音楽を流し、本人のペースで召し上がれるようにしている。食堂にある壁面は毎月1回その月の季節感を出せる飾り付けを利用者と一緒に作成している。	共用空間には窓からの採光があり、廊下や食堂の壁は郷土や季節を思わせる手工芸作品が飾られている。居室は事務室から入居者の出入りが確認できる配置で、入居者の様子や見守りに配慮されている。入居者は椅子、車椅子、ソファ等で個々の身体状況に合わせて朝の体操をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーには家族が面会に来たときに、ゆったり寛げ、本人とおしゃべりできる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使っていた家具や家族と一緒に写した写真が飾られている。花屋を経営していた利用者は、家族・知人から頂いた植物を大切にしている。	居室には使い慣れた物や家族写真、手工芸作品が飾られている。家族の訪問時一緒に楽しむお茶セット道具や、家族、知人から贈られた植物も大事に職員と一緒に管理している。居室には洗面台とトイレが設置され、職員と一緒に掃除やシーツ交換を日課として取組み、居室内環境も整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、居室内のトイレや廊下、浴室に手すりが設置されている。転倒防止の為、洗面台の下の水まわりやトイレ内、室内の環境整備を日頃から心がけている。		